



謹賀新年

第14号
阿蘇市文化協会
広報
(印刷所)
つるばやし印刷



阿蘇市文化協会
会長 小嶋 維男

平成二十五年の新たな年を迎えるにあたり一言ご挨拶申し上げます。

昨年七月十二日発生した九州北部豪雨大災害により、お亡くなりになられた方々に、あらためて哀悼の意を表するとともに被災された方々に心からお見舞い申し上げます。また、県内文化協会関係の方々からの温かい励ましのお言葉に心より厚く御礼申し上げます。さて、会員の皆様にはご案内の通り昨年の第八回阿蘇市文化祭、第十七回阿蘇観月茶会は、理事の皆様、先輩会員のご意見、平成二年七月二日の大災害時の対応等を参考に、役員会で協議した結果、昨年は、喪に服する、ということでご中止致しましたが、新年を迎え気持ち新たに「阿蘇の復興は阿蘇市から」という想いを込めて事業を進めていきたいと思っております。



会長就任以来、機会ある毎に県の文化協会主催の会議、研修会、祝賀会等に積極的に参加してまいります。これから取り組もうと思うことを、活動盛んな他の文化協会では既にずつと以

前から取り組んでおられる、これなら今から跡を継承して下さる若い方々も安心だろうなと思えますし、また、会合の発言の中にいろんな方のいろんな発言があり、「あのアイデアは阿蘇市でも活かせるかも」とこれまで阿蘇市のことしか知らなかった私にとりまして、まさにカルチャーショックの連続でした。今年も可能な限りいろんな会合に参加していきたいと思っております。

平成二十六年阿蘇中央病院が新築開院の予定です。災害復旧が順当に進めば次は市民文化会館を実現したいものです。教育、文化、医療、福祉の充実こそが阿蘇市民の皆さんの安心安全な快適な暮らしを担保するものと思います。勿論経済を支える雇用の場の確保は大切なことです。高齢化率の上昇に伴い今まで以上に自分の趣味や特技に生きがいを見出す方も多くなると思います。その受け皿の一つとしての文化協会はもともと魅力あるものにしていかねばなりません。その結果、間接的ではありますが医療費の軽減にも繋がります。今回の噴煙十四号は例年ですと文化祭の写真が沢山掲載され紙面を賑やかしますが、今回それが無いという事で、いつもより文章紙面をいただきました。文化祭を一年延ばした分、今年により充実したものにしようと役員一同張り切って取り組んで参りますので、ご支援ご指導宜しくお願い申し上げます。



阿蘇市長
佐藤 義興

昨年、阿蘇市にとりまして試験の一年でありましたが、会員の皆さま方には、新しい年をお迎えになられ、心からお慶び申し上げます。また、日頃から文化活動を通じ、地域の文化振興と心豊かな暮らしの実現に、ご尽力をいただき、深謝申し上げます。

七月十二日、未だかつて経験したことのない豪雨は、私たちの誇りである大地「阿蘇」に襲い掛かり、一瞬にして多くの尊い生命と財産を奪っていきまし。私たちはこの自然の猛威に驚愕するとともに、悔しくも残念でなりません。

阿蘇市は今、全国からのたくさんの方の励ましのお言葉や支援物資、さらにはボランティアの方々のご協力をいただき、一步一步確実に復旧から復興に向けて歩み出しています。

しかしながら、未だ多くの方々が無事な仮設住宅での生活を強いられ、崩壊した山肌や土砂で埋もれた田畑など災害の爪痕は生々しく残っています。そのような中、皆さまが日頃から取り組まれている文化活動は、文化意識を高めるだけでなく、温かい心の触れ合いと豊かな人間性を育み、生き生きとした人づくり・地域づくりにつながるものであり、被災された方々の心の傷もその活動を通じ癒されるものであると思っております。

「阿蘇市民音楽祭」開催します

…童謡でふるさと復興…

New DOYO Duo
童謡デュオ
みま～ゆ

日時: 3月16日(土) 開場: 午後1時
場所: 阿蘇市体育館
出演: 童謡デュオ「みま～ゆ」・プチ童謡組

Shimoji Youki

詳細は4面をご覧ください。

私たちは悠久の歴史の中でこの大地に文明を築き文化を育み、他地域に自慢できる「ふるさと」としてこの阿蘇をこよなく愛し続けてきました。このような大惨事となりましたが、決してあきらめることなく全市一体となり前進し、さらに安定した安心・安全な阿蘇市をつくらせていかなければなりません。

阿蘇市にとってこの一年を「復興の年」と位置付け、市民生活の隅々にわたるまで復興を成し遂げるとともに、郷土文化を大切に尊い遺産や伝統を守り、さらに充実したものを次世代に引き渡すことが出来るよう取り組んで参ります。会員の皆さま方のご支援とお力添えを引き続きお願い申し上げます。

結びに、本年も会員の皆さま方の文化芸術活動が大きく前進し、新たな文化の創造が実現されますことを祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。



展示委員長
石川 錦弥

負けずに、力強く

新年を迎えるにあたって

昨年は、九州北部豪雨による災害で、阿蘇市も大きな人的・物的被害を被りました。この為昨年第八回阿蘇市文化祭は被災による諸事情を考慮し、自粛することになりました。

阿蘇の文化の流れは、過去から脈々と受け継がれてきております。この度は開催を断念いたしました。今年度の文化祭はあつとき皆様も中心に抱かれた種々の思いをプラスさせようではありませぬ。そして、この自然の猛猛しさに負けなかつた力強い花々を咲かせたいものだと思願しております。

幸いにして確信できる事例が二つあり、又自分の夢もあります。その事例の一つは、昨年私たちが会員による展示会（染展）が、市外（菊陽



ステージ委員長
大木 福男

文化祭を通じて
阿蘇市に元気を

昨年七月十二日に発生した九州北部豪雨で被災されました多くの皆様方に心からお見舞い申し上げますと共に、お亡くなりになられた方々に哀悼の意を表します。昨年の文化祭の実施につきましては、多くの皆様方が被災され尊い命を亡くされた方々もおられる中、その人達のお気持ちを思うときに自粛ということになりました。会員の皆様には発表に向けて、一生懸命に稽古に励んでおられた事と存じます。今年度の文化祭では、その分だけ充分発表していただきたいと思っております。前回は百十一組のステージ出演があり、どの部門も熱意あふれる素晴らしい発表でした。今年も多数の皆様方の出演をお願いし、プログラム編成につきましては、各部門での

町）で開催されたことです。開催に至った事情が他にもあったとは言え、昨年の豪雨で複数会員が被災されたハンデキャップを乗り越え、やり遂げたということ。こうした事例は他にもきつと数件あったこと。もう一つは、今さらのことですが、培われてきた会員の皆様の技量の確かさ・高さです。この事例を踏まえ、これからの優位性を更に向上していくため、将来は分野毎の作品を評価する仕組みを作り、賞付けを実施・公表していくこと。こうした作品が市外部の展示会等にチャレンジしていく姿とか、文化会館を持って来日があるべき環境を持った会場で一段と輝いている姿を、沢山の人々に鑑賞していただいているという夢を抱いています。

事前の調整をお願いして、二日間のステージ発表がスムーズに進行できますよう、会員の皆様方のご協力を宜しくお願いいたします。又、ご要望もありましたが、舞台背景や出番表示の改善、ピアノ移動装置の導入などステージ部門では少しづつではあります。また、本年は文化祭とは別に三月十六日（土）に文化協会主催で童謡デュー「みまぐゆ」の音楽祭を実施することになっております。皆様のご協力と多数のご参加を宜しく願います。今年度の文化祭は、豪雨災害で被災された方々の復興と、阿蘇を元気にする文化祭として盛大に実施できればと思っております。本年も会員の皆様のご指導とご協力を心からお願ひ申し上げ、市民の皆様方のご支援を何卒宜しくお願ひ申し上げます。



魂が輝く三角法



「小生もうすぐ七十歳」
展示の部 絵画
山野 紘三

十二歳の頃の小学生、小国から杉々、山々を越え大観峰から急に阿蘇の広大な谷が目前に広がったその瞬間の感動！こんなに広い大地があるのを初めて知りました。それから四十八年、小国、阿蘇、大阪、阿蘇と移り変わり多くの文化を学びました。大阪での多感な頃、遊び、食い、仕事など懐かしく思い出します。大阪の頃、映画、「ベン・ハー」「スパルタカス」などの映画看板に出逢い大きく美しい看板の絵に感動、

その絵看板をしている大阪工芸でそれが私の仕事になっていきます。こちら阿蘇市での絵との出会い、サークル活動で水彩、油絵を描き始め、又新しい絵を始めました。阿蘇は種々の大口ケイションがあり、風景を描くには大変恵まれたところ。いつの日かこの阿蘇市から風景画の有名な画家が生まれる日が来るでしょう。サークルや個人で絵を描いていますが、合同で絵画の発表を行っていただければ、又新しい出会いが生まれ上達していくと思っております。日本でも恵まれた阿蘇の風景、もう一度改めて阿蘇の夕焼けをみて感動し、絵を描きましょう。



神様と私達
ステージの部 神楽
文化協会副会長
佐藤 義勝

日本の伝統を守る祭りごと

神代の昔、神々が生まれては消え、つむじ風のように生まれては消え、姿が形成されず神代七代となつて、ようやく姿、形が現れる様になり、この夫婦の神様が、イザナギ、イザナミの神様であり、天の浮橋に立つて海をかきまぜ、その滴から出来たのが、オノコロ島であり、今の淡路島で、大八島という日本列島が出来たのであり、神の国日本の始まりで、それから神々を造るに当り火の神が生まれた時、大やけどをしてしまい、それが病となり命を落すことになり、イザナギは愛しくて地の果てまで「黄泉の国」へ連れもどしに行くが出来ない。その不幸から帰り来た時、もう二度と不幸が起きない様にと、ツクシの



日本舞踊を習って
ステージの部 日舞
佐藤スマ子

日舞を習おうと思つたきっかけは、二つあります。その一つは、子どもの頃から踊りが大好きだったこと。もう一つは、仕事優先で社会の人たちとの付き合いがほとんどなく、いろんな人との出会いがほしかったこと。県立劇場での瑞浩先生の舞を見て頂き、その舞い姿に感動をして、退職を機にすぐ入門させていただきました。
お稽古は週に一回です。先生も一緒に動いてくださるので、大変わかり易いご指導です。少しでも先生の姿を真似ようと真剣です。お稽古の時間が短く感じます。
先生は人脈が広く、協会本部とのつながりも大きいので、熊本市内で行なわれる、いろいろな発表会にも連れて行つていただき、勉強させてもらっています。経験豊富な先輩や

日向の夕チバナのおどの川原につかり、ミソギを行う。最後にきれいなつて生まれたのが天照大神神月読の命であり、スサノオノ命という今迄に無いすばらしい三貴子を得る事が出来たと、すぐさま太陽の神、月の神、海の神と神の国日本の誕生である。今又祭の大きく有名なのが京都から発信された祇園祭である。多くの人が二、三ヶ月の間に四万余りの人が流行疫病に亡くなり、これを鎮めんが為、スサノオノ命に頼んだのが始まりで、神を奉る。そして村人が、祭りをする。つまり神様への感謝である。神様を奉る。私達の所が茨岳にも神様の降りたという足跡があり、神楽がある。日本古事記のままの神楽を今、子供達に日本の伝統を教える祭り、また地域が神様に感謝を忘れ、祭りを怠ると神々はなれるという言い伝えがある。今一度、神様を奉り阿蘇の神様も起きて来られる。どんな近代建造物でもイザナギ、イザナミで始まる祝詞が必要である事を忘れてはならないのでは。

仲間に出会えて、日舞を習って、こんな幸せはありません。
昨年の五月、宮地小学校の「放課後子ども教室」にさそわれて、一、二年生と「大阿蘇音頭」のお稽古をしました。みなさん楽しく踊り、良い機会だったと嬉しく思いました。日舞とか、いろいろな伝統芸能にふれることが少ないので、今後このような場を多く設けていただき、子どもや若い人達に好きになつてほしいと思います。着物姿を着ることも少なくなりました。着物姿は本当に美しく、これも日本の文化だと思えます。この阿蘇でも伝統文化を鑑賞する機会を設けていただけるとを望みます。
一人暮らしで、会話も少なく、声に出して笑うこともほとんどない生活ですが、針仕事をすることもあり、たくさん仲間に出会えました。腹をかかえて笑い、いろいろな社会勉強をさせてもらっています。人との出会いのすばらしさを感じています。これからも、楽しい老後を送りたいと思います。



復興を願って
展示の部 書道
山本三千代

七月十二日の豪雨災害で犠牲になられた方々、また多くの方々が被害を受けられました。心より御見舞い申し上げます。

そういう状況の中、文化祭をはじめ多くの行事が自粛されましたが、全国の方々から心を寄せていただいたこと本当にありがたい事です。また、阿蘇市民の皆さんもあらゆる場所、あらゆる場面でもボランティアをされ、頭が下がります。さて、私も書道塾を始めてから三十八年になります。ただ続けてこれたことだけです。しかしながら、私は生徒の皆さんから多くの事を学び力を貰いました。教えるというより教えられる日々です。書道に出会ったことにより、多くの友もでき、知人もでき、未知の世界も、未来の夢も持つ事が出来たと思えます。人生を何倍も生きても急がず、止まらずで、出会いに感謝しながら、何らかの形で一生続けていくつもりです。というのも、まだ一度も自分で満足した作品が出来ておりません。一生を終えるまでに一度は自分で、百点満点の作品を作りたいものです。それだけの努力もしていませんから無理な夢です。しかし、書道をしてきたことにより多くの喜びは得ることが出来ました。

私がいづつも心の糧としていたのは、相田みつをの「しあわせはいつも自分の心がきめる」という言葉です。書を通じて出会った人々から沢山の「しあわせ」をいただきました。「感謝の心」をいただきました。今までに他人様からいただいた「しあわせ」「心」をまだ恩返し出来ておりません。これからは、自分で満足できる作品を作ること、他人に「しあわせ」を与えられる人生を目指したいと思えます。
幸いにして我家はこの度の被害は受けませんでした。書友をはじめ多くの人々が二ユースで乙姫の雨量を見たと言つて全国から心を寄せて下さいました。改めて御礼申し上げますと同時に私も他人に心を寄せられる人でありたいと思えます。昨年には災害の為に大変な年でしたが、私には悪い事ばかりではありませんが、帰りに同級生の彼女を家に送つた時のことです。学生時代から疎遠になっていた彼女でしたが彼女の家の庭には沢山の花が咲きほこっていました。私も沢山の花をいただき花の好きな私には何よりも嬉しいことでした。そこまでは誰でもできることですが、彼女が素晴らしいのは、自分で楽しむだけでなく、岩手県や富山県までも花を送り、阿蘇市の仮設住宅にも、市役所にも、近所の人達にももちろんのこと、そうすることで皆さんの和やかにしているからです。人の為に無償で自ら育てた花を送り続ける。そういう同級生がいることを誇りに思えます。誰にでも出来る事ではありません。土砂の中に一輪の花を見つけた思いです。私は心にパンチを受けた思いです。他人に心を分けられる彼女こそが大輪の花です。
まだまだ復興するまで大変な事ばかりですが皆んなの心に花が咲くまでお互いに頑張りたいものです。文化協会の発展を心より祈念致します。

お知らせ

～ 開催要項 ～ (別表1)

阿蘇市民音楽祭

- 趣旨…平成24年7月「九州北部豪雨」被害からの復興に頑張る阿蘇市民の文化的欲求を満たし、音楽による精神的な癒しの時を提供することで阿蘇市の災害復興に寄与することを趣旨とする。平成24年度文化祭にかわる文化活動として位置付けるものである。
- 名称…「阿蘇市民音楽祭」
サブタイトル…「・・・童謡でふるさと復興・・・」
- 主催…阿蘇市文化協会
- 共催…阿蘇市・阿蘇市教育委員会・熊本県文化協会
- 開催期日及び時間…**平成25年3月16日(土)**
開場：午後1時 開演：午後1時30分より2時間程度
- 開催場所…阿蘇市立体育館 (第一体育館)
- 開催の内容…NPO法人日本国際童謡館
童謡デュオ「みま～ゆ」(そがみまこ、しもじゆうき)
- 準備と運営
文化協会本部役員と文化協会常任理事
総責任者(大会会長)…小嶋文化協会会長
専門部会を組織して準備と当日の運営にあたる。

九州北部豪雨から六ヶ月、被災された市民と関係者の懸命なご努力で復興が進められています。多くの人命が失われ、協会員が練習の時間や場所を失い、貴重な作品が流出した状況を考え昨年の文化祭開催を自粛いたしました。

阿蘇市文化協会にとつても経験のない事態でした。復旧・復興が進むなかで本来の協会活動にもどし、市民の文化的欲求を満たし災害復興に貢献したいと考えます。そこで「阿蘇市民音楽祭」の開催を計画いたします。

事務局 だより



暦も改まり新年を迎えて「平成二十四年度文化祭」に代わるものとして計画、実施に向けて準備を進めています。その内容は(別表1)をご覧ください。音楽祭の計画は十一月十五日の臨時常任理事会にて承認されました。協会員の皆様には趣旨をご理解いただき多くの市民の参加を期待いたします。文化協会会員総力を挙げて取り組めます。

また、恒例の「文化協会一般研修」を検討しています。福岡博多座の観劇や清和村人形浄瑠璃見学など楽しく有意義な研修を行ってききました。ぜひ今後ともご期待頂きたいと思っております。皆さんの一般研修に対するご意見をお寄せください。

「平成二十四年度文化祭は開催されなかったので会費の返却を・・・」というご意見があります。もう一度協会費の正しいご理解を頂きたいと思っております。会費は協会活動全般に資するもので、文化祭への出演や出展のためのものでありませぬ。勿論、文化祭開催のための経費にもなります。文化講演会や機関誌発行、一般研修、地域文化活動振興などに幅広い活動の資金として有効に活用させて頂きます。文化祭への出演・出展の資格確保の会費ではないことをご理解頂きたいと思っております。

末筆ながら会員皆様のご健勝を祈念し、本年も変わらず阿蘇市文化協会事務局へのご支援とご指導をお願いいたします。

グループ展開催 ～阿蘇染色講座～

小野真由美



市文化祭が中止になる中、グループ展開催を自粛すべきではないかという考えもありましたが、こんな年だからこそ今まで温めてきた想いを外へ発信しました。講師である鈴木浩先生と受講生、および、先生の阿蘇アトリエ教室の三人が合流し計九人によるものでした。

先生の屏風を始め、染絵額・暖簾・タペストリー・風呂敷・テーブルセンター・座布団・スカーフ・バッグ等、昨年の作品はもろろんのこと、これまでの講座で作成した自信作も出品し点数は、大小あわせて一五七点ギャラリーの雰囲気も良く盛大に終わりました。

これからも好奇心・向上心を持つて新しいことに挑戦していきたいと思っております。次回このような催しが開かれたらと思いつつ・・・



平成二十四年十一月六日から十一日まで、お菓子の香梅光の森店ギャラリーにて念願の「阿蘇染色教室グループ展」を開くことができました。

昨年は災害に見舞われ、阿蘇を開くことができませんでした。

先に発行いたしました十三号の短歌に間違いがございました。正しくは左の通りです。訂正させていただきます。

柿若葉つぶりつぶりとはやきて (市原ふみを)

五月の空に万のこも満つ (坂梨 道子)

木の精が語りかけくる大木の 椈は空に枝を拡げて (鶴田美佐江)

原爆に過ぎし幼の仲良しの 庭のかたばみ薄紅色よ (森 トミ)

長雨の晴れて眩しき夏空に 虹かと紛う含飲の花咲く (森 トミ)

会員募集

阿蘇市文化協会では、会員を募集しています。地域で活動されている文化サークル、グループ、個人的に活動されている方、この機会に阿蘇市文化協会に入会してはいかがでしょうか。なお、申し込みは随時受け付けています。連絡をお待ちしています。

〈連絡先〉 阿蘇市文化協会事務局
TEL(0967) 22-2223 (下村)



編集後記

広報委員長 山内スミ子

「新年をむかえるにあたって」
昨年七月十二日に発生をした九州北部豪雨による災害で被災されました、たくさんの方々に、心からお見舞いを申し上げますと共に、心からお悔やみ申し上げます。昨年の文化祭は被災されました方々を思い自粛されましたが、一生懸命に稽古に励んでおられました事を思い出します。申し訳なく思いました。今年の文化祭は、豪雨災害で被災された方々の復興と、阿蘇市の皆様様が元通りの暮らしに戻れる様に願いつつ、盛大に立派な文化祭になりますように、頑張りたくと思っております。皆様のご支援をよろしく願います。

《広報部》

- 山内スミ子 首藤 雅子
- 西村伎久乃 今村由里子
- 森 トミ 小島かず子
- 市原ふみを